

万感の笑顔 よく頑張りました(優)

卒業証書を受け取る遠友塾の卒業生



自主夜間中学 札幌遠友塾の卒業式

家庭の事情や戦争により通う自主夜間中学「札幌遠友塾(工藤慶一代表)」の第十五回卒業式が二十日、札幌市民会館で行われ、十九人が巣立った。遠友塾は一九九〇年に

北海道新聞

毎日新聞

開設。市民会館を会場に、市民ボランティアの講師から、毎週水曜日に国語や数学など四科目の授業を三年間受け、遠足や社会見学などもある。昨年までに計二百三十四人が卒業した。市民会館が閉館となるため、同会館では最後の卒業式。四月以降は札幌市教育文化会館に会場を移す。式では、一、二年生と、

文字を学ぶ「じつくりクラス」の計四十七人に修了証書が贈られた後、卒業生が工藤代表から一人一人卒業証書を受け取り、家族やスタッフから大きな拍手を受けた。工藤代表は「高校に進学する卒業生が開校以来最多の六人もいる。本当によく頑張りました」と努力をたたえた。白石区の横井芳子さん(モモは

「三年間、楽しくてあっという間に過ぎました。次は通信制の高校で勉強したい」と話していた。(松本悌一)

30〜70代の19人「巣立ち」
「札幌遠友塾自主夜間中学」で卒業式

戦争、貧困などの理由で義務教育を受けられなかった人にボランティアが中学校の教科を教える「札幌遠友塾自主夜間中学」工藤慶一代表(68)の卒業式。修業式が21日、札幌市民会館で行われた。1990年にスタ



教室として使ってきた市民会館はこの日を限りに閉鎖され、4月からは別会場に移る。同塾スタッフと生徒らは公立夜間中学を設置するよう道や札幌市に要望していく。今年の卒業生19人は30〜70代。生徒は卒業証書を受け取り「写真」「義務教育未修了」という60年間の心の傷を、遠友塾がいやしてくれた。「初めて卒業証書をいただき、感激でいっぱい」などと感謝の言葉を述べた。

同塾は4月から会場を札幌市教育文化会館に移すが、教材の保管場所や保健室がない。また、教員もボランティアのため、専門家の指導も求められている。工藤代表らは、道や札幌

市に公立夜間中学の開設や空き校舎の民間提供などを訴えるため、「北海道に夜間中学つくる会」を設立することになっている。【鈴木勝一】